

# 熊本 県大COC通信

熊本県立大学  
COC推進室

## 「地域志向教育研究事業」

### 9件のプロジェクトが始動

COC事業の柱のひとつである「地域志向教育研究事業」について、初年度となる今年度は9件のテーマを採択しました。関係する自治体と連携しながらの取組が始まっており、成果が期待されています。(詳細裏面)

「地域志向教育研究事業」は、本学の専任教員が、本学COCと連携する自治体(熊本県、八代市、天草市、和水町、相良村、五木村)の地域課題や、COC事業を効果的に推進するうえで、必要となる教育・研究・社会貢献活動を支援する新しい制度です。

初年度となる今年度は9件の事業が採択されました。各プロジェクトの所属別内訳は、環境共生学部3件、

総合管理学部4件、COC推進室2件です。また対象となる連携自治体別では、熊本県関係と八代市関係が各3件、天草市関係が2件、五木村関係が1件でした。

#### 連携自治体との協議も

地域のニーズを的確に掴むとともに、協働実施体制を構築するため、各プロジェクトの対象となる連携自

治体との意見交換を重ねながら、事業に取り組んでいます。また、PBLの開発プロジェクト等では、本学の学生に視察、研究をさせる取組も行っています。

#### 学生を交えた取り組みも

事業のテーマとしては、「県南フードバレー構想」の推進に関するものや、地域で問題となっている空き家を活用したアートプロジェクトなど、地域の活性化を目指す取組や、PBL(地域の課題解決を組み込んだ授業)の展開に向けて教員と学生が共同で研究する事業や、新年度から開講する地域志向科目の内容に関する研究も含まれています。初年度だけでは事業効果が得られない課題も多いため、今後もそれぞれのテーマについて継続的に取り組んでいくこととなります。また、地域での現地調査等に可能な限り学生を参加させることで、教育的な効果も期待されます。



本学と天草市との協議



本学と五木村との協議



本学と八代市との協議

平成26年度 熊本県立大学COC地域志向教育研究一覧

学部名	代表者氏名	研究タイトル	対象
1 環境共生学部	高橋浩伸	アートルイエンナーレによる地域活性化に関する研究	天草市
2 環境共生学部	辻原万規彦	天草市における近代建築物の保存と今後の活用を考える	天草市
3 環境共生学部	小林淳	小規模施設に向けたFO膜ろ過による重金属含有排水の処理技術の検討	熊本県
4 総合管理学部	小泉和重	「限界町村」の財政運営-五木村を対象に	五木村
5 総合管理学部	丸山泰	学生による「やつしろトマトフェスタ」参画を通じた地域活性化の実践型教育研究事業	八代市
6 総合管理学部	宮園博光	学生主導型PBL(FW)の取組みへの基礎調査	八代市
7 総合管理学部	澤田道夫	災害と総合管理-総合管理型減災教育の推進	熊本県
8 COC推進室	松添直隆	「くまもと食育検定テキスト」の開発	熊本県
9 COC推進室	松添直隆	八代市の産業活性化のための予備調査	八代市

研究の取組状況について

平成26年度に採択された地域志向教育研究(上表)の中からユニークな取組を紹介します。

八代市を舞台に、総合管理学部の丸山・宮園・小園ゼミが取り組む「学生による「やつしろトマトフェスタ」参画を通じた地域活性化の実践型教育研究事業」は、「学生の力でフェスタを活性化して欲しい」という八代市トマトフェスタ実行委員会からの相談が、研究開始のきっかけとなりました。地域の中で学生が実践的な取組をする最適な機会であり、かつ教育的な効果が期待できると考え、3つのゼミの2年生が中心となって事業が開始されました。

事業の設計にあたり、学生が単にイベントに参加して盛り上げるだけでなく、学生が自ら地域の課題を発見し、何が自分達に出来るのかを探り、アイデアを実現・実行し評価するまでのPDCAサイクルを通して学習する意図を以て、足掛け2年以上の活動計画が立てられました。次

年度は、実行委員会に計画段階から企画・運営、広報展開、マーケティング、メディア・コミュニケーションに至るまで参画し、各分野を研究する丸山・宮園・小園ゼミの専門性を発揮すると同時にそれらを協働し束ねていくリーダーシップが求められます。一年目の活動を経て、学生達が発見した課題や気づきについて、二年目の事業にどのように反映させてフェスタを盛り上げていくのか、今後の活動が注目されます。



3つのゼミでキックオフ・ミーティング

実践型教育研究事業の狙いと活動計画

●プロジェクトの狙い

**学生が地域と取り組み、自ら起こす地域活性化アクション**

- 現場起点**
  - 現場の実際と向き合い課題を発見
  - 現場の視線で課題を捉える
- 協働共創**
  - 様々な立場の人と共に考える
  - WIN-WINになる具体策を作る
- 実践主義**
  - 実現可能な施策に落とし込み実行
  - PDCAを回し、フィードバックする

●活動計画

「TOMATOフェスタ」を通じて、地域活性化に貢献

